ミツカン水の文化交流フォーラム２００４　開催のお知らせ

水の値段

文化から考える水資源の価値

「水を資源と見なしてよいのか？」「水はどのような価値をもった資源なのか？」－これら水の値段をめぐる問題は、第３回国際水フォーラムでもテーマになった「Water for All」を実現する上で、国際的な水議論の大きなテーマとなっています。

この点は、日本でも今後大いに議論される領域となることが予想され、幅広い視野で様々な若手専門家と市民が共に意見を交わすことが必要となることでしょう。とはいえ、「水資源の価格」という話題は、とかく狭く専門的な議論に陥りがちなものです。そこで、当センターでは、文化・社会の側面からこのテーマに光を当て、幅広く深い議論することが、次世代の社会づくりに必要ではないかと考え、以下のフォーラムを開催することといたしました。

水に関わる研究者や政策関係者、環境や文化を通じた市民活動に関わる方など、幅広いご参加をお待ちしています。

日時：２００４年１１月 １ 日（月）１３時３０分開演～１７時３０分 １７時３０分より交流会を開催

会場：法政大学市ヶ谷キャンパス　ボアソナードタワー２６階　スカイホール

東京都千代田区富士見２－17－１　JR市ヶ谷駅・飯田橋駅より徒歩約10分

プログラム（予定）

特別報告	「しのびよる水の危機 ～水は誰のものか～」 中村靖彦　明治大学客員教授・農政ジャーナリスト
テーマセッション	「水への『思い』に込められた値段」 菅　豊　東京大学助教授 「経済から見る、人のつながり（ソーシャル・キャピタル）と水の価格」 諸富　徹　京都大学助教授 「必要なのは、安い水？ 高い水？」 沖　大幹　東京大学助教授
パネルディスカッション	「水に値段はつけられるのか」 沖、菅、諸富の３名によるディスカッション　／　参加者との質疑応答 コーディネーター：鳥越皓之　筑波大学教授
交流会	参加者・発表者との情報交換

くわしいお問合わせは当センター事務局までお願い申し上げます。
FAX：03 - 5762 - 0246
尚、フォーラム参加の申し込みや詳細情報については、９月以降にホームペー ジなどでご案内いたします。
なお、プログラム等、予告なく変更する場合がございます。予め、ご了承ください。

■水の文化18号予告

特集「排水−すてる水、ためる水、つかう水」（仮）

水を排出すると「排水」ですが
利用すると廃水ではなくなるのも排水です
水と排水のあいだには
さまざまな「利用」が横たわっています
現代人にとって
水利用とはどのような意味をもっているのでしょうか

『水の文化』に関する情報をお寄せ下さい

本誌『水の文化』では、今後も引き続き「人と水との関わり」に焦点を当てた活動や調査・研究などをご紹介してまいります。

ユニークな水の文化楽習活動を行っている、「水の文化」にかかわる地域に根差した調査や研究を行っている、こうした情報がありましたら、自薦・他薦を問いませんので、事務局まで情報をお寄せください。

ホームページのお問い合せ欄をご利用ください

http://www.mizu.gr.jp/

水の文化 バックナンバーをホームページで

本誌はモノクロで皆様に配布しておりますが、写真をはっきり見たい！というご要望にお応えし、11号からはホームページにてカラーでバックナンバーを提供しています。すべてダウンロードできますので、いろいろな活動にご活用ください。

水の文化人ネットワーク　夏の登場者

当センターホームページ・水の文化人ネットワークコーナー。以下の方々をアップロードいたします。

諸富　徹　京都大学大学院経済学研究科助教授
宗田好史　京都府立大学人間環境学部助教授

編集後記

◆昨秋開催した「水の文化交流フォーラム」でアラン・コルバン氏が述べた言葉が、妙に耳に残っていた。「水に対する感性の歴史の中で、西洋では紀元前6世紀に水の価値の序列が確立した。トップは、雨水」。今回の取材のたびに、雨の根源性と多様性に学ぶ事ができた。（主）

◆四年ぶりの事務局復帰です。四年の間にかなりの変貌を遂げました。スタッフの充実、研究の成果、ネットワークの充実などなど驚くとともに、身の引き締まる思いです。今号「雨のゆくえ」いかがでしたでしょうか。雨にまつわる言葉、行事、音楽など思いつくだけで、様々な情景が蘇ります。年がバレバレですが、私的には「悲しき雨音」や「雨に濡れても」がとてもよい響きで蘇ります。（新）

◆天を仰いで雨に濡れるのを気持ちよいと思ったのはいつ頃だったろうか？子供のころ、学生の頃、少々の雨は平気だった。今では少しでも雨が降ればすぐに傘をさす。雨から逃げるように。（日）

◆リニューアル号以降、企画としていつも挙がっては消えするテーマが「雨」でした。編集部でも人によって捉え方の違う「雨」、皆が納得する切り口探しに難航しました。今回の「水循環」はいかがでしたでしょうか？　これで「水の文化」として雨を捉え尽くしたとは思っていません。みなさんの雨の見方をお聞かせください。（ゆ）

◆雨は雨水として地面に受け止められるとみんな大事にするけれど、雨そのものをどうも大事にしない。龍神様は「川に降る雨」「森に降る雨」「港に降る雨」「農地に降る雨」「都市に降る雨」などと区別するわけではないから、雨を統合的な水資源管理の出発点に据えるのは最適だ。水循環を支える文化とは、雨は境界を越えるというイメージから出発するのではないか。（中）

◆デパートには、内部の人間にだけ通じる符丁のようなアナウンスや音楽がある。雨が降り出すと、それを知らせる音楽が流れ、奥に仕舞われていた傘が表舞台に出てくるという仕組み。雨は、人の暮らしのこんなところにまで入り込んでいる。万人の上に平等に降る雨も、日照権のように、守らなければ権利を脅かされる時代がくるのだろうか。（賀）

ミツカン水の文化センター機関誌
水の文化
第17号

ホームページアドレス
http: //www.mizu.gr.jp/

※ 禁無断転載複写

発行日　2004年（平成16年）8月
企画協力　沖 大幹　東京大学生産技術研究所助教授
嘉田由紀子　京都精華大学教授　琵琶湖博物館研究顧問　水と文化研究会世話役
古賀邦雄　水・河川・湖沼関係文献研究会
陣内秀信　法政大学教授
鳥越皓之　筑波大学教授
編集　吉田 稔　新美敏之　日比野容久　小林夕夏　中庭光彦　賀川一枝　賀川督明
発行　ミツカン水の文化センター
〒475 - 8585　愛知県半田市中村町2-6
株式会社ミツカングループ本社 広報室内
Tel. 0569 (24) 5087　Fax. 0569 (24) 6353
お問い合わせ　ミツカン水の文化センター　東京事務局
〒143 - 0016　東京都大田区大森北 2 ー2 ー10・4F
Tel. 03 (5762) 0244　Fax. 03 (5762) 0246
PRINTED ON RECYCLABLE PAPER.